

授業中の騒音を減らそう!!

聴覚障害のある子どもに限らず、授業中の騒音を減らす環境づくりは重要です。

その1 イスや机に騒音防止のゴム等がついているかを確認したり、取り付ける。

ガタつきを修理する。

その2 運動場や隣の教室から騒音が入ってきたら窓やカーテンを閉める。

- ・大きな音になり過ぎないように教員が互いに心遣いをする。

- ・授業時間を守る。

- ・授業時間にやむを得ず教室移動を行なう際はしゃべらないで移動することを伝える。

その3 学習規律を明確にし、余計なおしゃべりを減らす。

その4 指示を短くはっきりと出し、メリハリのある授業を行い子どもたちが集中しやすいようにする。

その5 静かに聞く時間であることを伝える時の合図を決めておく。

(ハンドサイン・視覚的な表示、話し合い時間終了のタイマーでの伝達等)

その7 教員が穏やかな口調でメリハリのある話し方をする。

その8 静かである・落ち着いている(騒音がない)という状態を理解させておく。少し騒がしくなったり話し合いの時間等で大きな音が出て速やかに静かな状態に戻れるようにしておく。(中本)



身辺自立をめざして ～ひも結び編～

年齢があがってくるにつれて、ひも結びが必要な衣服や道具が増えてきます。ひも結びをする機会を意識して作りましょう。(例：衣服を風呂敷袋に入れる(写真参照)、お手伝いの際にエプロンをつける、など)

<教えるときのポイント>

- ◆初めて使う風呂敷袋は、ひも先をまとめて持ちやすくすると結びやすい。

- ◆介助する場合は、子どもの背後から大人が手を添える方がよい。

- ◆ゴール直前の手順からまず子どもにさせ、徐々に手順を増やしていく。

手順1：絡ませたひもを引っ張るだけ

手順2：ねじったひもの先を輪の中に入れ込むところから

手順3：交差させたひもの先を自分でねじって入れる

手順4：交差させるひもを自分で持つところから

手順5：自分ではじめから



本校で使用している着替え袋

この動作を2回繰り返すと、こま結びになりますが、いわゆるたて結びになります。これを避けるには、結び目の重なりを交互にしなければなりません。これは、手の操作に迷いがなくなってから変更しましょう。

また、エプロンやはちまき、靴ひもなどを結ぶには、蝶結びも身につけさせたいものです。上記の基本のこま結びができるようになったら、取り組んでみましょう。

蝶結びには、両方のひもであらかじめ2つの輪を作って、こま結びと同じように結ぶやり方もあります。

参考文献) 発達につまずきを持つ子と身辺自立 湯汲英史編、大揚社

(中瀬)